



赤嶺ヶ丘 (※)

12月号 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 発行
〒894-0622 奄美市笠利町大字笠利 1924 番地 TEL 0997-63-8114



文責：笠利中学校の芝生化も少しずつ進んでいます。今週は那くんも手伝ってくれました。もっともっと緑が増えれば良いなと日々思う幸田

充実した 2 学期 校長 崎山 至

今年も大詰め、2 学期も充実した中で終了しようとしています。行事の多い学期でしたが、生徒たちがそれぞれの行事にしっかりとした目標を持って取り組み、その中で大きく成長する姿を見せてくれました。しかし、行事だけに追われるのではなく、各教科の学習や部活動等にもけじめをつけて励んでいる態度が素晴らしかったと思います。

学校行事だけでなく笠利地区の四大大行事のうち、校区運動会、校区相撲大会（招魂祭）、町内駅伝大会と 3 つの行事が今学期にあり、ほとんどの生徒たちが出場選手として、または応援等で協力し活躍してくれました。締めくくりの町内駅伝大会は、小雨の中での実施でしたが出場選手をはじめ沿道で応援してくれた方々の熱い思いで各集落に元気を与えたと思います。私も微力ながら笠利チームとして参加させていただき、普段は励ましてばかりの立場から、同じチームメイトとして、小中学高校生・一般のメンバーとタスキをつなぎ、心を結ぶことができ、とても満足しています。また、笠利町内各集落が全て参加し、この大会を盛り上げていることにも感服します。チームの結団式から本番終了後の集まりを通じて、生徒たちのあいさつや片付け手伝い等の態度に、地域の教育力の高さを実感したところでした。このようながんばりに刺激を受け、学校地域が連携して運動面だけでなく全ての分野で生徒たちが意欲を持って伸びていくことを目指していきたいものです。

今年も、本校の教育活動にご理解・ご協力いただきました関係各位に深くお礼を申し上げます。新年もどうぞよろしくお祈り致します。

日本復帰記念第 38 回奄美市中学校英語暗唱・弁論大会が行われました！！

11 月 30 日に大川中学校で英語暗唱大会、名瀬中学校で弁論大会が実施されました。英語暗唱大会には 3 年生の長井駿くんが出演し優良賞、弁論大会には 1 年の大窪さくらが出演し、優秀賞に入賞しました。長井駿くんのショートスピーチでは、「文化祭の劇を通して、大変なことも多かったが、1 つのことを成し遂げることの素晴らしさを知ったこと」を発表しました。大窪さくらさんは「佐仁の八月踊りの伝承」をテーマに八月踊りの楽しさや、伝承していくことの重要性を述べました。2 人とも大勢の前で堂々と素晴らしい発表をしました。また、大窪さくらさんは奄美市の代表として、大島地区弁論大会に出場することになりました。裏面に大窪さくらさんの発表内容を載せていますので是非ご覧ください。



第 20 回 エネルギー利用技術作品コンテストで文部科学大臣賞受賞を W 受賞しました！！

夏休みから取り組んでいた、理科に関するもの作りのコンクールである、「第 20 回エネルギー利用技術作品コンテスト」において、3 年の赤塚達海くんが個人最高賞の文部科学大臣賞、永田佳代さん、泉楓さんが団体最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。個人部門・団体部門の文部科学大臣賞 W 受賞は同コンテストで初めてのことで、また、赤塚達海くんの作品は日本機械学会会長賞の W 受賞に輝きました。さらに、丸田晴樹くん、豊紅葉さん、長井駿くんが大臣賞に次ぐ長官賞の 1 つである中小企業庁長官賞を受賞しました。科学技術大国である日本の技術力の低下が叫ばれていますが、本校の生徒が近い将来日本を救ってくれることを期待しています！！



e-ネット安心教室が行われました！

黒電話→プッシュホン→ポケベル→ガラケー→スマホと、科学技術進化に伴い、情報通信機器もこの 20 年で大きく変化しました。と、同時にネットいじめやスマホ依存など昔は考えられなかったような社会問題が顕在化するようにもなりました。自分の身は自分で守るかしかないという観点から、本年度、e-ネット安心教室を実施しました。

当日は、ドコモショップ名瀬店から 2 名の講師が来校し、ネット犯罪の例やネット依存の弊害について、動画を活用し説明して下さいました。機種変更のために使用しなくなったスマートフォンや、携帯ゲームも Wi-Fi 環境下では簡単にネットに接続でき、親の知らないところでネット上にて情報を交換し、犯罪に巻き込まれる可能性があることも話されました。便利なスマートフォンですが所持・使用については家庭で十分話し合いを行って下さい。



食に関する指導が行われました！！

「自分の食生活に関心を持ち、自己の食生活を振り返る」「運動機能向上や疲労回復のためには、栄養バランスのとれた食事が大切であることを知る」「郷土奄美の食文化や地場産物に関心を持つ」等を目的として、各学年で食に関する指導を実施しました。1・2 年生は笠利学校給食センター栄養教諭の長畑先生（赤木小中学校所属）をお迎えし、1 年生は給食の献立を 6 つの食品群に分類したり、自分の食べている朝食に不足している栄養素を考えたりしました。2 年生は、アスリートの食事を題材に、自分たちの食生活を振り返りました。3 年生は味の郷かさりから、藤田美津子さん、里福子さんを講師としてお迎えし、郷土料理について理解を深めるため、「舟焼き」と「マゴゼリー・ドラソルゼリー」を作りました。



生徒の感想

- 1 年： 給食は栄養のバランスが良く考えられており、残さないで食べることが大切だということを改めて考える良い機会となりました。
- 2 年： アスリートは栄養バランスに関する意識は高く補助食も摂取しているが、普段の食生活がその基になっており、普段の「食」を大切にしていることがよくわかりました。
- 3 年： 舟焼きやフルーツゼリーは良く食べていますが、作り方を初めて知りました。今度は家でも作ってみたいと思います。

普段自分たちが食べている食事について改めて考える、大変良い機会となりました。3 年生が作った舟焼きは、職員にも試食に預かりました。材料は同じはずなのに、各班、それぞれ個性がでており、大変おいしい舟焼きでした。家庭でも作ってくれることを期待しています……。

ナカドゥチェス市交流について報告しました！

本校 2 年中野瑠香さんと濱崎圭吾くんが奄美市教育委員会主催の平成 29 年度国際交流派遣事業参加報告会に出席してきました。10 月、本市から中学校 2 年生 15 名がカリフォルニア州ナカドゥチェス市に国際交流で参加しましたが、そのうち 2 名が笠利中生でした。現地の奄美会と交流したり、ジュニアハイスクールで現地の中学生と学習を深めたりと多くの貴重な体験をしてきました。参加した中野瑠香さんは「私は将来、英語を活かした職業に就きたいと思っているのですが、自分の英語力の弱さを痛感しました。そのため、『より一層英語について学習したい！！』と思うようになりました。」、濱崎圭吾くんは「日本に比べ土地も広く、住宅もとても豪華で、プールがあることに大変驚きました。日本の治安の良さを改めて感じました。」と感想を述べていました。5 月にはナカドゥチェス市の中学生が笠利中学校を訪れ、交流会を実施しました。国際交流に盛んに取り組んでいる笠利中学校。多くのことを学び、世界に羽ばたく人材に成長してくれることを期待しています。



12・1 月の主な行事



12	15	金	租税教室	12	20	水	ノ一部活動デー	1	4	木	仕事初め
	16	土	青少年育成の日		21	木	音楽発表会		9	火	始業式
	17	日	市民総ぐるみ清掃活動		22	金	終業式・美化作業		10	水	ノ一部活動デー 3 年実力テスト(～11 日)
	18	月	人権同和教育学習 第 4 回家庭教育学級 C 校時		25	月	冬季休業(～1 月 9 日)		13	土	書初め大会
	19	火	校内駅伝大会・学年 PTA 学校保健委員会		28	木	仕事納め		14	日	家庭の日 市民清掃の日

佐仁の八月踊りを伝承するために

奄美市立笠利中学校 1年

大窪 さく

ら

私の住んでいる佐仁集落は限界集落だ。佐仁で生まれ、八月踊りや島唄を聞いて育った若者が集落から出ていってしまう。佐仁の誇れる八月踊りの継承が難しくなっているのが現状だ。

佐仁の八月踊りは、鹿児島県の無形文化財に指定されている。由来は、色々あるが、元は神様たち（ユタ神様とノロ神様）の神事だった。また、五穀豊穰や健康祈願、火事よけとも言われている。

私は、八月踊りが大好きだ。おじやおばは歌をかぶせながら歌い、踊り合う。はじめはゆっくりと優雅なリズムだが、だんだんテンポが速くなる。速いリズムに必死に合わせて踊ると胸が高まり、とても興奮する。その瞬間がたまらなく楽しい。しかし、一緒に踊ることはできても、私はおじやおばのように歌を歌えない。一緒に歌も歌えたらもっと楽しいだろうと思う。周りを見てみると、私だけでなく、全く歌わず踊っている人が結構いる。佐仁の誇りともいえる八月踊り。私たち若者がこのような状態だといけないと思った。だからまずは、歌詞を覚えたいと思う。歌詞には、方言が使われているので、歌を覚えるには、方言知り、意味まで理解しなければならない。佐仁小学校では、老人クラブの会長さんが時々方言を教えに来て下さっていた。そこで覚えた方言をいろいろな場面でしゃべっていた。特に、「お年寄りお宅訪問」では、方言で自己紹介すると、喜んでくれて嬉しかった。日常的に使う方言から一つ一つ覚えて、八月踊りの歌詞につなげていけたらと思う。

しかし、「八月踊りを若者が受け継ぐべき」という私の考えに疑問を持つ人がいると思う。例えば今から大人になる子どもたちはいずれ佐仁を出るかもしれない。だったらそこまで苦労して歌を覚える必要もないと考える人もいるだろう。だが私は違うと思う。子どものうちに、おじやおばと歌って踊れることの楽しさを感じていると、また八月踊りに行きたいという気持ちも強くなる。だから今、歌を覚えて八月踊りの魅力を体全体で感じるのはとても大切だと思う。私はこの八月踊りを伝承するために取り組んでいることがある。それは、佐仁子ども会の八月クラブに参加することだ。先日、その八月クラブで指導して下さる和郎さんからとても大切なことを教えて頂いた。それはシバサシの最終日に踊られる「うらとみ」という歌についてだ。この歌は島津藩の支配下におかれた厳しい時代に人々の「欲望」や「ねたみ」に翻弄された娘を失い、自らも命を絶ってしまった悲しい女性の生き様を歌った歌だ。和郎さんが歌って聞かせてくれたとき、私の心は孤独感に包まれた。「なんて悲しい、心に迫る歌なんだろう」。和郎さんの表情と静かで柔らかい声とメロディーを今でも忘れられない。奄美の先人たちは、厳しく苦しい時代をたくましく生き抜いた歴史がある。そういうことも伝え、受け継ぐ八月踊りは、島の誇りであると思った。佐仁集落は、とても小さな集落だ。だが、八月踊りという素晴らしい伝統芸能がある。まずは一人一人が八月踊りに対する意識を高め、今の歌と踊り、そして、そこに込められた「島の心」を守りぬくことが大切だ。そのために小さなことからでも自分にできることを積極的に取り組んでいきたい。